

明和町文化財年報

—平成 28 年度—

平成 30 年（2018） 3 月

三重県多気郡明和町



三重県指定有形文化財（工芸品）「仏通禅師所用法衣並びに什物」



「七条袈裟」

＜例 言＞

1. 本書は、平成 28 年度の明和町における文化財保護業務に関する調査成果等の概要について報告するものである。
2. 本書の作成は、齋宮跡・文化観光課の味噌井拓志が行った。
3. 本書に用いた座標は世界測地系に基づく。
4. 土層の色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖』に拠った。

＜目 次＞

第 1 章 組織と業務	1	第 6 章 その他の文化財・文化遺産	15
1. 組織		1. 伊勢街道	
2. 事務分掌		2. 民俗	
第 2 章 指定文化財	1	3. 上野の聞き取り調査	
1. 明和町の指定文化財		4. その他	
2. 明和町文化財保護審議会		第 7 章 事業	20
3. 届出関係、修繕		1. 史 齋宮跡 史跡等買上げ（直接買上げ）事業	
4. 調査など		2. 埋蔵文化財発掘調査	
5. 新たな文化財指定		3. 史跡および施設の管理	
第 3 章 埋蔵文化財	6	4. 歴史的風致維持向上計画推進費	
1. 周知の埋蔵文化財包蔵地		5. 日本遺産魅力発信推進事業	
2. 主要調査の概要		6. 啓発事業	
第 4 章 史跡	13	第 8 章 活用・普及・啓発など	23
＜史跡齋宮跡＞		1. 取材対応など	
1. 現状変更許可申請		2. 資料調査対応	
2. 活用		3. 貸出・提供	
＜史跡水池土器製作遺跡＞		4. 寄贈・寄託	
1. 現状変更許可申請		5. 講座・説明会・イベントなど	
2. 活用		6. 文化財保護関係団体などの活動	
＜県指定史跡坂本古墳群＞		7. 関連新聞記事一覧	
第 5 章 天然記念物	14	附編 指定文化財一覧	29
1. 齋宮のハナショウブ群落			

第1章 組織と業務

1. 組織

明和町の文化財保護に関する業務について、平成28年度は下記の体制で行った。

斎宮跡・文化観光課（町長部局）

課長：西口 和良

- ・文化財係（文化財の保存、活用及び管理に関すること、歴史文化観光のまちづくりに関することは補助執行）

文化財保存活用監兼文化財係長：中野 敦夫

職員：乾 哲也（文化財技師）、山本 歩美、味噌井 拓志（文化財技師）

臨時職員：1名

発掘調査作業員：12名（※登録）

発掘調査整理作業員：1名

斎宮のハナショウブ群落：8名（※登録）

- ・文化観光係（観光の振興に関すること、歴史文化観光のまちづくりに関すること）

文化観光係長：森下 純、職員：中井 清央

2. 事務分掌（文化財係）

- (1) 指定文化財に関すること
- (2) 文化財の活用に関すること
- (3) いつきのみや歴史体験館に関すること
- (4) 史跡公園の管理に関すること
- (5) その他文化財に関すること

第2章 指定文化財

1. 明和町の指定文化財

指定件数

平成29年3月31日現在

区分	有形							無形 民俗文化財	記念物		合計
	建造物	絵画	書跡	彫刻	工芸品	古文書	考古資料		史跡	天然記念物	
国				1			1		2	1	5
県		2	2		4	3	8		1		20
町	2			8	1	4	1	7	5		28
合計	2	2	2	9	5	7	10	7	8	1	53

2. 明和町文化財保護審議会

委員名簿

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

氏名	専門分野	氏名	専門分野
下村 登良男 (会長)	考古	中谷 真弓	民俗
三田 正之 (副会長)	郷土史	渡邊 幸宏	郷土史
倉田 直純	斎宮跡	藤田 直信	美術史
高橋 徹	建造物	西村 由美子	郷土史
千枝 大志	近世史	福山 知子	郷土史

- ・平成 28 年度 第 1 回明和町文化財保護審議会

日時：平成 29 年 2 月 21 日

場所：明和町役場 大会議室

出席：9 名 欠席：1 名

<議題>

1. 委員の任命について
2. 正副会長の選任について
3. 安養寺所蔵の県指定文化財への指定について（報告）
4. 平成 28 年度の文化財関係事業概要について
5. その他 指定候補物件について

3. 届出関係、修繕

- ・「大淀の祇園祭」（東区祇園宵宮）山車修理事業

明和町指定文化財「大淀の祇園祭」について、当該文化財の管理団体の一つである大淀東区自治会より、山車の飾り提灯への修繕費用に対して補助金交付の申請がなされた。これを受けて、明和町文化財保護事業費補助金交付要綱に基づき、修理費用の交付を行った。補助金額は 73,000 円（補助対象経費の 2/3）である。

4. 調査など

- ・平成 28 年 7 月 29 日、養川自治会が所有する町指定文化財「木造聖観音立像」並びに「木造胎蔵界大日如来坐像」に対して、当課職員が文化財の状態や防犯状況を確認した。また、養川自治会役員に、防犯意識の啓発を行った。
- ・三重県内での文化財の盗難事件発生を受け、平成 28 年 11 月 21 日付で町内の指定文化財所有者に対し、三重県教育員会作成の防犯対策マニュアル等を送付し、防犯意識の啓発を行った。

5. 新たな文化財指定

明和町大字上野の安養寺が所蔵する明和町指定有形文化財「仏通禪師所用法衣並びに什物」（昭和 56 年 10 月 27 日指定）について、平成 29 年 2 月 2 日に「仏通禪師所要法衣並びに伝来什物」として三重県有形文化財（工芸品）に指定された。この指定に伴い、平成 29 年 2 月 2 日付で町指定文化財を解除した。また、平成 29 年 2 月 17 日に三重県庁にて山口千代己教育長より安養寺に対して指定書の交付がなされた。

当該文化財の概要および指定理由については、三重県教育委員会発表の資料を以下に抜粋して紹介する。

有形文化財（工芸品）**仏通禪師所用法衣並びに伝来什物**

一、七条袈裟 一領 一、直綴 二領 一、頭陀袋 一口 一、剃刀箱 一合 並びに剃刀 二口 一、柄錫杖 一柄
 附 鉢盂 五口、匙 一口、筋 一對

員 数：一括
 所 在 地：多気郡明和町大字上野 652
 所 有 者：宗教法人 安養寺
 所 有 者 住 所：多気郡明和町大字上野 652
 年 代：鎌倉時代後期～江戸時代

《指定説明》

安養寺は、永仁5年（1297）に臨済宗の禅僧 癡兀大慧（1229-1312）（諡号：仏通禪師、以下、仏通禪師）によって創建された臨済宗東福寺派の寺院である。中世には室町幕府や伊勢国司北畠氏からの庇護をうけ、中南勢で屈指の規模を誇っていた。

仏通禪師は伊勢国出身で、比叡山で学んだ後、東福寺を開山した円爾の門人となり、応長元年（1311）に東福寺第9世住持となった。開山した安養寺において、正和元年（1312）11月22日に示寂したと伝えられる。

資料は、仏通禪師が使用したとされる伝世品及び法要時に整えられたもので、内容は以下のとおりである。

・ **七条袈裟 一領** 法量：丈 92.0cm 幅 189.5 cm

仏通禪師所用と伝えられる袈裟である。田相部分は白地に龍丸文を散らした顕文紗、縁、堅条と一部の横堤は紺地に尾長鳥を、横堤の一部と紐座、環座には黄色地に大ぶりの向孔雀丸文様を織り出した文綾を用いている。四隅の角帖部分は萌葱地に唐花を織り出した綾地の別絡金襴を用いる。環は緑漆によって、花唐草が表現されている。

顕文紗とは中国・南宋時代に製織が始まった文様織物で、田相に使われているものは南宋時代後半（1127～1276）に制作された品とみられる。縁や堅条等に使われる2種類の文綾も鎌倉時代以降に多く見られるもので、特に黄色地のものは中国からの請来裂と考えられる。四隅の金襴は他の生地より制作年代が下がる様式を示しており、後世の補修によるものと考えられる。

このように、多くの裂地は仏通禪師所用として違和感のないもので、当初の様相を残しているが、後世、傷みが進んだためか、全体に和紙による裏打ちがなされている。また、本来この袈裟を納めていたと考えられる箱（現在は後述する直綴を納める）の墨書からも、修理を重ねながら伝えられてきたことがわかる。浅葱地に蓮唐草文様を織り出した浮織綾の袈裟包が付属し、頭陀袋とともに、桐の二方棧箱に納められる。

・ **直綴 二領** 法量：① 丈 126.0 cm 総桁 226.0 cm ② 不明

袈裟のすぐ下に着用する法衣で、仏通禪師所用と伝えられる。上半身と下半身がつながっている衣服で、襟をうちあわせ、附属する紐で腰の左右を結びとめ着用する。禅宗とともに中国から伝わり、禅僧の外見上の指標とされてきた。

①は3種類の文綾（赤茶地八藤丸文、赤茶地石畳文、黄茶地団花文）を40片程度縫い合わせたもの、②は明るい黄茶地に波のような文を織り出した文綾を用いたものである。②は傷みが激しく、畳んだ状態で縫いとめられているため広げることができない。これら二領は、桐箱に納められているが、本来この箱は箱書きから袈裟を納めるものとして制作された。

・ **頭陀袋 一口** 法量：縦 60.0cm（カバーを開いた状態） 横 29.0cm

仏通禪師所用と伝えられる、経文等の僧具を携帯するための首からさげる袋である。

表地には焦茶色平織の麻、裏地には紺地に入子菱文様を綾織した麻をあわせ、四周を白と萌葱の段を織り出した綾織の絹で縁取っている。これを三つ折にして襜をつけ、袋に仕立てている。覆蓋から背面にかけて仏通禪師が示寂した時刻と場所が墨書されている。

・ 剃刀箱 一合 並びに 剃刀 二口

法量：箱 縦 23.4cm、横 4.5cm、幅 4cm、剃刀 いずれも長さ 22cm、柄幅 2.6cm

剃刀箱は長方形印籠蓋造の箱で、内部を板で仕切り、剃刀 2 口を納める。長側面中央に金銅製の菊花形紐金具がつく。

外面は黒漆塗に平目地で仕立て、蓋中央に金平蒔絵で単弁の菊の折枝 1 本を表している。内面は黒漆地として蓋裏と身込に付描で蝶と鳥が飛び交う様子を描く。

剃刀 2 口の柄は、黒漆塗平目地に箱内部と同様の蝶鳥文を表す。剃刀の刃には著しい使用痕がある。

中世の剃刀箱の類例がないことや、後世の修理痕跡も認められることから、改装や転用の可能性はあるものの、平目粉を用いた地蒔、平蒔絵に描割を組み合わせた菊花の表現、単純化された蝶鳥の描写などから、制作年代は中世に遡ると考えられる。

・ 柄錫杖 一柄

法量：全長 26.0cm 頭部（杖頭部）長 14.7cm 頭部幅 10.8cm 遊鑲径 4.8cm

読経等に合わせ振り鳴らして用いるもので、本例は柄（手）錫杖である。

心葉形の外輪の左右の肩に雲形、腰に三日月形を表し、外輪頂部には宝珠形があったと思われるが一部を欠失している。穂袋部の先端は水瓶形、蕨手先には蓮台宝珠を配すし、外輪左右には各 3 個の遊鑲を備える。

総体に磨滅が著しく、また各部の表現が不明瞭なところから、何らかの由緒を持つ古い錫杖を型取りして鑄造した可能性も残る。心葉形の外輪の形式は中世を遡る古様を伝えるが、太く重厚に表された蕨手や穂袋部の表現には中世的特色も認められ、仏通禪師在世時をやや遡る頃に制作されたと考えられる。

なお、木製の柄は後補である。

・ 鉢盂 五口、匙 一口、筋 一对

法量：皿 口径 13.6cm、底径 7.5cm、器高 3.8cm

鉢 1 口径 17.5cm、底径 8.5cm、器高 7.0cm

鉢 2 口径 18.0cm、底径 9.3cm、器高 8.0cm

鉢 3 口径 19.0cm、底径 9.5cm、器高 8.5cm

鉢 4 口径 19.5cm、底径 5.8cm、器高 10.0cm

匙 長さ 20cm、筋 長さ 19.5cm

禪宗の修行僧が使用する食器で、入れ子状に重ねられている。轆轤で成形した木製素地に黒漆を塗ったあと、朱漆を塗り重ね、底部はさらに黒漆を塗り重ねている。文化 8 年（1811）の墨書のある箱および袱紗に収納されており、付属の朱漆塗匙および筋とともに、仏通禪師の五百回忌の儀式用に制作されたものと考えられる。

評価

安養寺を開山し、かつ当寺で示寂したと伝わる仏通禪師の所用品として、まとまって伝えられている資料である。特に袈裟や法衣の染織品は、鎌倉時代にまで遡り、一部に南宋からの請来裂を用いているところから、所伝通り、仏通禪師の所用品の可能

性が高く、禅宗において、師から弟子に教えを付嘱した証として授ける「伝衣」とその関係品と考えられる。

当資料は、三重県内において、臨済宗東福寺派の寺院として屈指の規模を誇っていた安養寺開山の仏通禅師に関するまとまった資料であり、学術的・文化史的にきわめて価値が高い、県内第一級の文化財である。

(以上、三重県教育委員会「新指定答申資料3 仏通禅師所用法衣並びに伝来什物」より抜粋)



「直綴」



「頭陀袋」



「剃刀・剃刀箱」



「柄錫杖」

「仏通禅師所用法衣並びに什物」(三重県教育委員会提供)

第3章 埋蔵文化財

1. 周知の埋蔵文化財包蔵地

・届出件数

文化財保護法第93条第1項の規定による土木工事等発掘届出の受理：32件

文化財保護法第94条第3項の規定による協議：1件

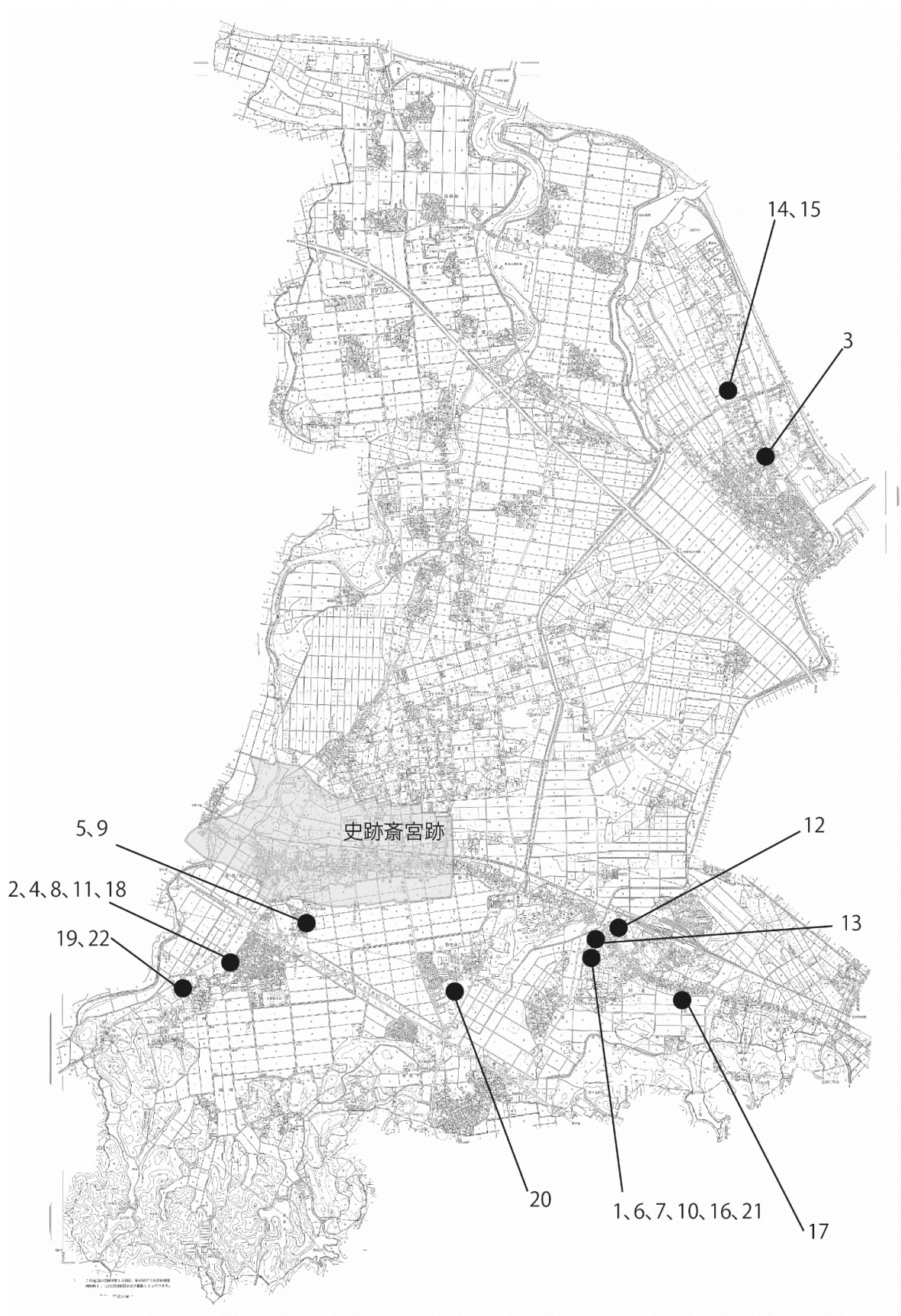
・発掘調査

調査は明和町斎宮跡・文化観光課が行った。緊急発掘調査を実施したのは22件で、下記一覧表のとおりである。調査の内、主要なもの（No.19、21、22）について次節で概要を報告する。ただし、報告の内容は現在も整理中のため、あくまで暫定的なものである。

平成28年度 緊急発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積 (㎡)	申請者名	備考
1	水池土器製作遺跡 黒土遺跡	明星字水池 1633-16	4月5日	2	個人	遺構・遺物なし
2	金剛坂遺跡	金剛坂字辰ノ口 751-59	4月12日	2	個人	遺構・遺物なし
3	有爾町野遺跡	大淀字東有爾町野 2857-36	4月13日	2	個人	遺構・遺物なし
4	金剛坂遺跡	金剛坂字辰ノ口 751-36	4月20日	2	個人	遺構・遺物なし
5	露越遺跡	竹川字南裏 178番6	5月18日	3	(株)明松ホーム	遺構・遺物なし
6	水池土器製作遺跡 黒土遺跡	大字明星字水池 1633-7	6月15日	3	個人	遺構・遺物なし
7	水池土器製作遺跡 黒土遺跡	明星字水池 1626-6	7月13日	2	(株)幸三建設	遺構・遺物なし
8	金剛坂遺跡	金剛坂字辰ノ口 751-61	7月19日	2	個人	遺構・遺物なし
9	露越遺跡	竹川字南裏 178番8	7月26日	3	個人	遺構・遺物なし
10	水池土器製作遺跡 黒土遺跡	明星字水池 1633-9 字黒土 1625番5	7月27日	3	(株)幸三建設	遺構なし
11	金剛坂遺跡	金剛坂字辰ノ口 751-57	9月9日	2	個人	遺構・遺物なし
12	二ツ橋遺跡	明星字二ツ橋 2092-14	9月12日	2	個人	遺構・遺物なし
13	水池B遺跡	明星字水池 1692-3	9月12日	3	個人	遺構・遺物なし
14	申山C遺跡	大淀字申山 2852番34の一部 ほか	10月3日	2	個人	遺構・遺物なし
15	申山C遺跡	大淀字西有爾町野 2854番 16	10月20日	4	個人	遺構・遺物なし
16	水池土器製作遺跡 黒土遺跡	明星字水池 1633-15 字櫻出 3569番5	10月31日	3	個人	遺構なし
17	須磨ヶ広遺跡	明星字須磨ヶ広 地内	11月1日～ 11月7日	130	明和町(上下水道課)	遺構・遺物なし
18	金剛坂遺跡	金剛坂字辰ノ口 751-60	11月25日	5	個人	遺構・遺物なし
19	城堀遺跡	上村字城堀 1309-13	1月31日～ 3月14日	147	(有)ホームタウン	土塁の測量・トレンチ調査
20	北野遺跡	養村字順礼野 472-145	2月20日	5	個人	遺構・遺物なし
21	水池土器製作遺跡 黒土遺跡	明星字櫻出 3569番1 字水池 1633-11	3月17日	3	個人	平安時代末～鎌倉時代初頭の溝を検出
22	城堀遺跡	上村字城堀 1309-13	3月15日～ 3月28日	63	(有)ホームタウン	古墳の周溝の一部を確認

・平成 28 年度 発掘調査位置図 (番号は一覧表と対応)



2. 主要調査の概要

No.21

遺跡名：水池土器製作遺跡・黒土遺跡

遺跡番号：260・230

調査地：明和町大字明星字櫻出 3569 番 1 字水池 1633-11

事業主体：個人

調査原因：個人住宅

費用負担：原因者

調査機関：明和町斎宮跡・文化観光課

担当者：乾哲也・味噌井拓志

調査期間：平成 29 年 3 月 17 日

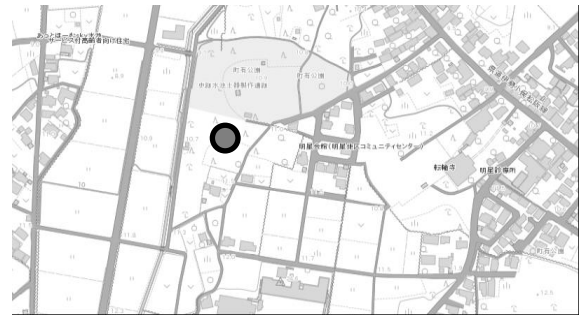
調査面積：約 3 m²

【概要】

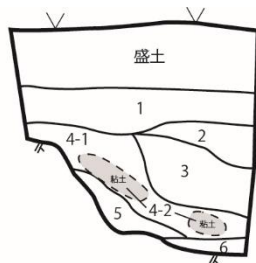
個人住宅建設に伴う合併浄化槽の埋設工事に先立ち発掘調査を実施した。

調査では、南北方向の溝の一部を検出した。溝の埋土には大量の灰白色粘土が含まれるとともに、おびただしい量の土師器片が出土した。出土した土師器は鍋および皿で、山茶碗も出土している。これらの遺物は平安時代末から鎌倉時代初頭に属するものと考えられる。

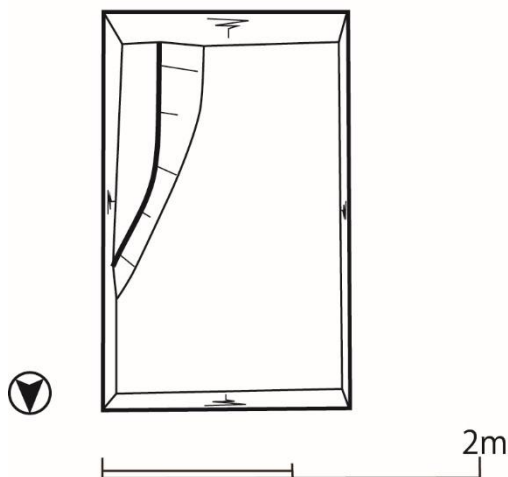
今回検出した溝については、平成 26 年度に実施した発掘調査で検出した溝に続くものと考えられ、窯道具と考えられる棒状土製品も共伴していたことから土師器生産に関わる失敗品を廃棄したものと推定され、本調査地点の近傍において当該期の土師器生産を示唆するものである。



調査地位置図 (1 : 6000)



- 1 : 7.5YR4/1 褐灰色土 (包含層)
- 2 : 10YR3/1 黒褐色土
- 3 : 10YR5/3 にぶい黄褐色土
- 4-1 : 7.5YR4/3 褐色土 (土師器多量に含む)
- 4-2 : 2/5Y 灰白色粘土
- 5 : 7.5YR5/4 にぶい褐色土
- 6 : 7.5YR5/1 褐色砂質土
- 7 : 7.5YR7/8 黄橙粘土 (地山)



遺構平面図 (1 : 40)



溝断面 (北から)

No.19

遺跡名：城堀遺跡

遺跡番号：170

調査地：明和町大字上村字城堀 1309-13

事業主体：有限会社ホームタウン

調査原因：団地造成

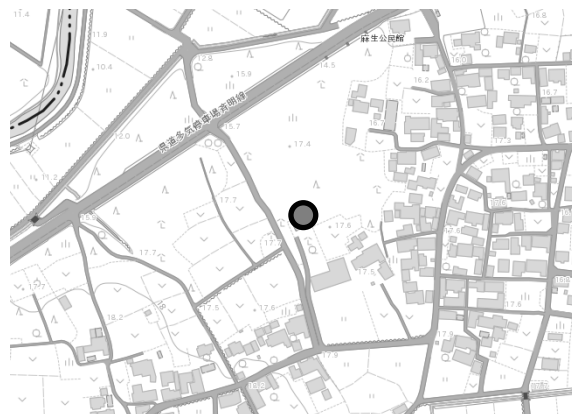
費用負担：明和町

調査機関：明和町斎宮跡・文化観光課

担当者：味噌井拓志

調査期間：平成 29 年 1 月 31 日～3 月 14 日

調査面積：147 m²



調査地位置図（1：6000）

【概要】

宅地造成に伴い試掘調査を実施した。事業地の中央区、東側、西側にそれぞれトレンチを設定して調査を行った。事業地の中央部分のトレンチでは、重機で深さ 1.5mほど掘削したが、山砂が充填され地山を検出できなかった。事業地の北側で平成 25 年度に実施した試掘調査でも同様の状況が確認されている。事業地のこれまでの土地利用について、過去の航空写真との比較検討や周辺住民への聞き取り調査を行った結果、昭和 40 年代後半に大規模な砂利採取がおこなわれ、後に埋め戻されていることがわかった。このことから事業地の大半で既に遺跡が滅失していることがわかった。

ただし、事業地の東端および西端には土塁状の高まりがあり、『城堀遺跡発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター2003）で城館に関わる可能性が指摘されている。これらの土塁状の高まりについても、それぞれ実測調査およびトレンチを設定し試掘調査を行った。

西側の土塁については、土塁の東側は砂利採取により削平を受け、西側は道路および側溝の敷設により削平を受けていた。そのため、土塁の基底部や溝など関連の遺構を確認することはできなかった。また、断面観察では人工的な土塁の構築痕跡を確認することができなかった。砂利採取によりかつての地表面の高さも明確でない。以上のことから、今回の試掘調査では、現在視認される土塁状の高まりが実際に城館に伴う遺構と判断することはできず、土地境界部分のかつての地表面が線状に残存している可能性も考えられる。東側の土塁についても、砂利採取による削平を受けており、明確に城館に伴う遺構と断定することはできなかった。

今回の試掘調査ではこれらの土塁状の高まりの性格について断定することはできなかった。今後、周辺での調査等の蓄積によりその性格が解明されることが期待される。

なお、三重県教育員会社会教育文化財保護課の竹田憲治氏、櫻井拓馬氏から調査に関するご教示を得た。



東側調査区 3 トレンチ（西から）



西側調査区 2 トレンチ（西から）

No.22

遺跡名：城堀遺跡

遺跡番号：170

調査地：明和町大字上村字城堀 1309-13

事業主体：有限会社ホームタウン

調査原因：宅地造成

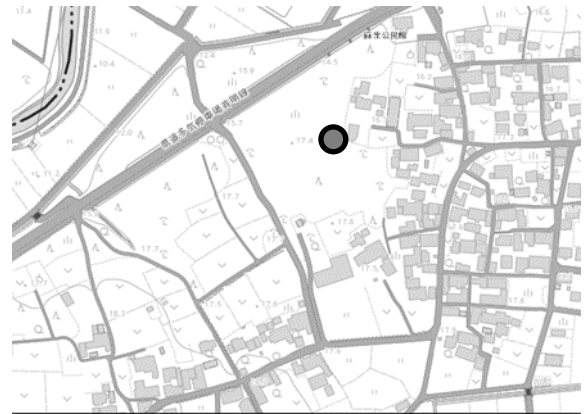
費用負担：有限会社ホームタウン、明和町

調査機関：明和町斎宮跡・文化観光課

担当者：味噌井拓志

調査期間：平成 29 年 3 月 15 日～3 月 28 日

調査面積：63 m²



調査地位置図（1：6000）

【概要】

明和町大字上村地内における宅地造成に伴い、事前に試掘調査（No.19 の調査）を実施したところ、東側調査区において東西方向の溝の一部を検出した。溝は幅 0.7m、深さ 0.3mで、小片の土器しか出土せず、後世の削平や竹根による擾乱もあり、古墳と即断することはできなかった。しかし、調査区より東側に墳丘と思われる方形状を呈するマウンドが認められた。このため、検出した溝は古墳の周溝であると総合的に判断した。古墳は現存する形状から方墳と思われ、南北約 13m、東西は現存する最大部分で約 9 mの規模である。この古墳は新規の発見で、調査区は大字上村であるが、墳丘の大半が隣接する麻生地区に含まれることから「麻生里中 1 号墳」として三重県教育委員会に対して届け出を行った。



調査区前景（北から）



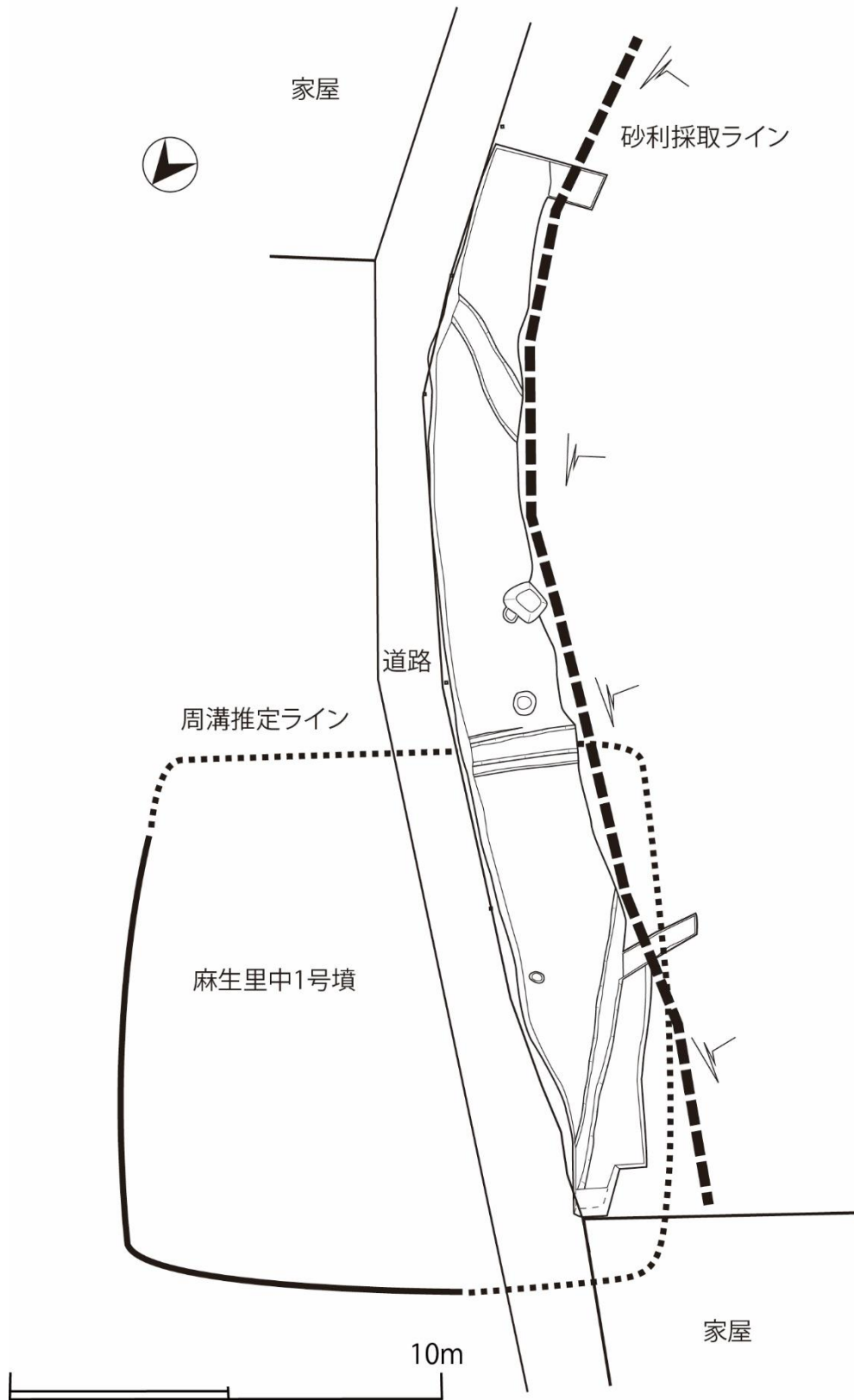
検出した周溝の一部と麻生里中 1 号墳（西から）



麻生里中 1 号墳（北から）



発掘調査風景（南から）



城堀遺跡 発掘調査平面図 (1 : 150)

第4章 史跡

<史跡齋宮跡>

1. 現状変更許可申請

文化財保護法第125条第1項の規定による史跡名勝天然記念物現状変更の受理：53件

申請の内、発掘調査を実施したものの一部は国庫および県費の補助金を受けた。また、調査は明和町が主体となり、齋宮歴史博物館および明和町齋宮跡・文化観光課が現地調査を担当した。なお、平成28年度の調査結果の概要は『史跡齋宮跡 平成28年度 現状変更緊急発掘調査報告』を参照されたい。

2. 活用

史跡齋宮跡内では年間を通じてさまざまな活用がなされている。主なイベントの実施日と参加者数は下記のとおりである。

- ・齋王まつり【齋王まつり実行委員会】 6月4日（土）・5日（日） 約29,000人
- ・熱気球係留フライト体験【明和町】 8月21日（日） 151人搭乗
- ・ロマンまつり・いつきのみや観月会【(公財) 齋宮跡保存協会】 9月17日（土）約5,500人
- ・追難のまつり【(公財) 齋宮跡保存協会】 12月23日（金・祝） 約450人
- ・いつきのみや梅まつり【明和町観光協議会】 2月25日（土） 約2,800人
- ・いつきのみや春絵巻【齋宮跡保存協会】 2月26日（日） 約1,500人
- ・さいくう市 毎月第1・第3日曜日に開催
- ・こどもわいわいフェスティバル【明和町日本遺産活用推進協議会】 3月19日（日）約5,000人
- ・公園利用：利用申請件数14件

<史跡水池土器製作遺跡>

1. 現状変更許可申請

文化財保護法第125条第1項の規定による史跡名勝天然記念物現状変更の申請：1件

申請内容は、齋宮跡・文化観光課の歴史的風致活用国際観光支援事業「道路標識」の設置である。現状変更にあたっては、当課職員の立会いのもとで工事を実施した。

2. 活用

- ・齋王参向古道まつり【齋王参向古道まつり実行委員会】 11月12日（土） 約1,400人

<県指定史跡坂本古墳群>

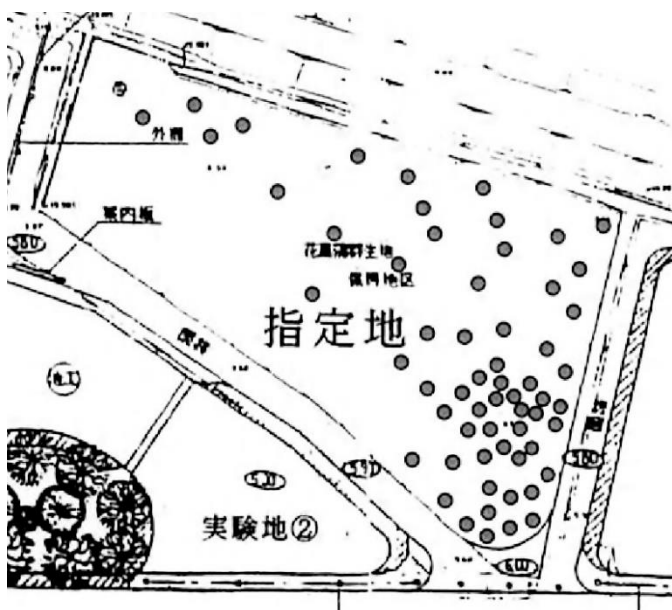
平成27年度に引き続き、歴史的風致維持向上計画事業に基づき公園整備を行った。なお、整備工事にあたっては、当課職員が工事立会ならびに発掘調査を実施した。

第5章 天然記念物

1. 斎宮のハナショウブ群落

『斎宮のハナショウブ群落保存管理計画』（平成22年度策定）に基づき、給水および雑草の除却や周辺の草刈りなどを実施した。管理は当課職員と作業員が行うとともに、東野自治会に一部を委託している。

また、当該文化財の啓発及び指定地来訪者の文化財への理解を促進する目的で、チラシを作製した。チラシは毎年作成しており、町内全戸へ回覧したほか、指定地や関連施設に設置した。



ノハナショウブの分布状況（平成29年3月時点）



配布チラシ

・開花状況（過去3年分を表示）

	一輪目	咲き始め	満開	終了
H28	5月24日	5月26日	6月6日	6月20日
H27	5月25日	5月25日	6月4日	6月16日
H26	5月28日	5月29日	6月10日	6月23日
H25	5月16日	5月20日	5月31日	6月18日

・視察

5月30日に愛知県知多郡阿久比町の視察を受けた。阿久比町役場産業観光課職員および花かつみ保存会のメンバー合計15名に対し、担当職員が管理状況などを現地で説明した。



視察状況

第6章 その他の文化財・文化遺産

1. 伊勢街道

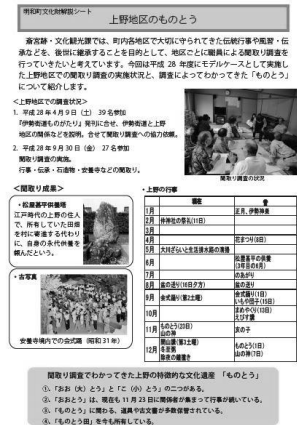
- 7月25日：伊勢街道沿線の旧家（明星）所蔵品確認
- 10月27日：伊勢街道沿線の旧家（斎宮）所蔵品確認

2. 民俗

- 10月27日：旧家（佐田）所蔵品確認
- 11月25日：蓑村地区 山車の現状確認

3. 上野の聞き取り調査

- 9月30日：上野地区文化遺産（行事や伝承など）聞き取り調査
 - 11月23日：上野地区ものとう（おおとう）に関する聞き取り調査
- 2回の聞き取り調査に基づき、明和町文化財解説シート「上野地区のものとう」を発行した。



明和町文化財解説シート

4. その他

・陸軍第七通信連隊一二八部隊 兵舎跡等調査

明和町大字斎宮字北野地内には、かつて旧日本陸軍第七通信連隊の基地があった。現在の道路網はかつての基地の区割りを踏襲しており、建物のコンクリート基礎が残存するなど基地に関わる痕跡が今なお点在している状況である。

平成28年度、個人所有地に残存している基地に関わる遺構を除却したいとの相談を受けた。当課では所有者の了解を得て、除却前に記録保存を行うこととした。以下、遺構の概要を説明する。

遺構はコンクリート製の基礎で、上部構造は残っていない。基礎は旧日本陸軍第七通信連隊の基地構造物の内、隊員のための兵舎で、木造2階建てで瓦葺であったことが資料や聞き取りから判明している。資料によれば、兵舎は基地内に合計8棟あり、本物件は第3中隊のものである。兵舎はそれぞれ東西約95m、南北約60mの区画内に配置されていた。兵舎基礎部分は一部破壊されているものの、残存部からの復元によって兵舎全体の規模を推定することができる。

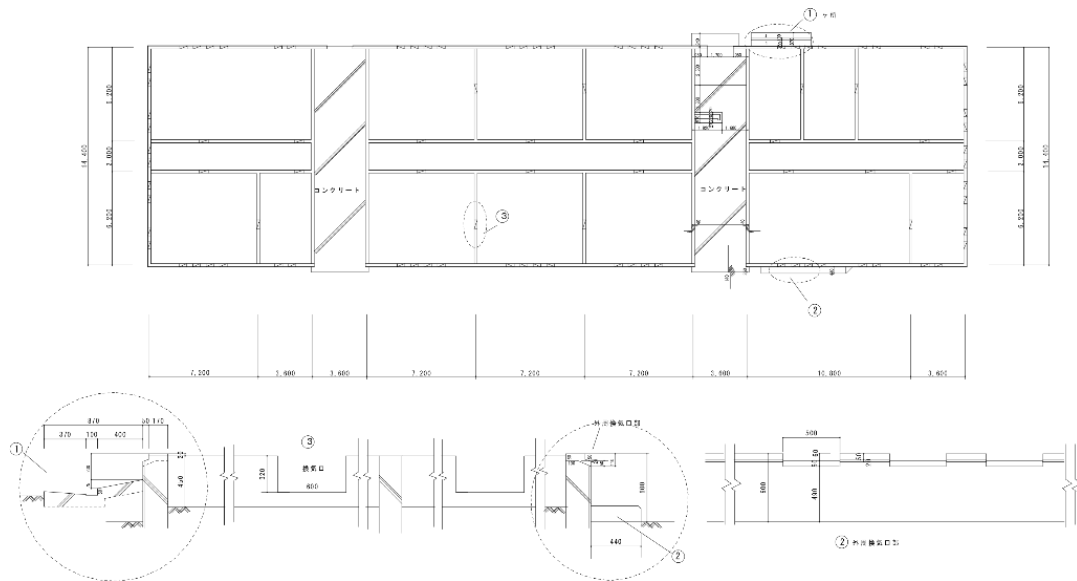
兵舎は東西方向に54m、南北方向に14mで、東西方向に長い構造である。長軸辺に直交する2か所に幅3.6mの入り口が設けられ、東西方向に幅2mの通路がある。居室は通路を隔てて南北に配置されている。部屋の奥行きは6.2mで一定であるものの、幅は必ずしも一定ではなく、10.8m、7.2m、3.6mの間取りがあり、奥行き6.2m×幅10.8mの間取りが2区画、奥行き6.2m×幅7.2mのものが8区画、奥行き6.2m×幅3.6mのものが4区画、合計14区画である。これらの部屋に隊員がどのように割り振られていたか詳細は不明である。部屋の床下には換気口が設けられ、外部に向けても換気口を備える。コンクリート基礎の厚さはおよそ0.23mである。



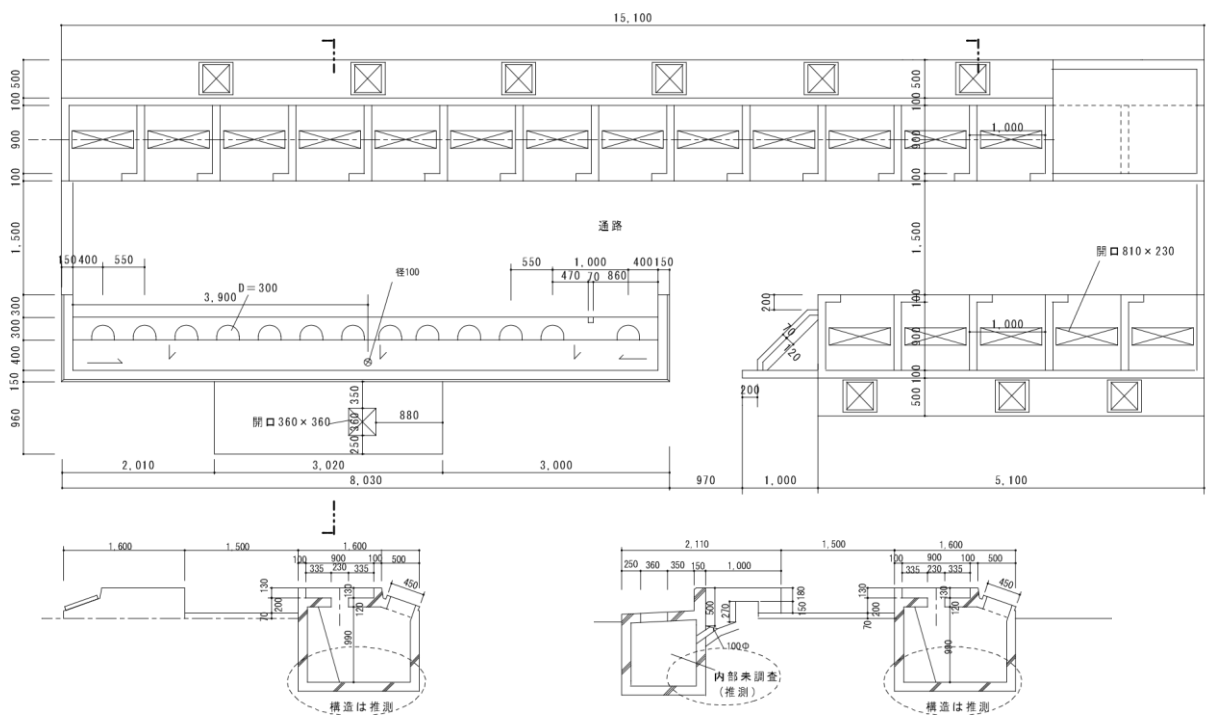
昭和23年（1948）12月撮影の航空写真
（国土地理院提供）

兵舎がある区画内には、他にも区画の北西側に便所棟の基礎が遺存している。便所棟もコンクリート基礎で、現在建物本体は遺存しないが、木造であったと考えられる。建物は東西に長く、南側の中央部分に出入り口があり、東西方向に通路がある。通路をはさんで北側と南東側に個室が配され、南西側は小用の部分となっている。施設は、大用が20穴、小用が13穴、大用の汲み取り10穴、小用の汲み取り1穴、手洗い場と思われる部分が1箇所確認できる。大用はドアの痕跡があり、小用も1穴のみ個室のものがあり、上官用の可能性がある。

これらの建物は基地内に規則的かつ計画的に建造されていたと考えられ、本物件とほぼ同規格の兵舎が配置されていたと推量される。実測調査を通じて、兵舎の規模に関する貴重な知見を得ることができた。なお、実測および製図にあたっては高橋徹氏（明和町文化財保護審議委員）のご協力を得た。



陸軍第七通信連隊一二八部隊 兵舎跡実測図 (1:500)



陸軍第七通信連隊一二八部隊 便所跡実測図 (1:100)



残存する基礎部分（南東から）



中央部分（南から）

兵舎現況写真（平成28年9月撮影）

・陸軍第七通信連隊一二八部隊 元隊員への聞き取り調査

かつて陸軍第七通信連隊一二八部隊に所属していた元隊員より、当該基地についての問い合わせがあった。これを受けて平成28年7月15日に現地を案内するとともに、聞き取り調査を実施した。以下は聞き取り内容の概要である。

<聞き取り内容>

・伊藤恵司氏（大正13年1月1日生まれ）

・部隊所属期間：昭和19年12月1日～昭和20年6月

※昭和19年11月30日に宇治山田駅へ到着、駅前に宿泊。

12月1日に鉄道で斎宮駅に着き、着任。

基地の隊員内では「中部128部隊」と呼称し、第2航空軍第7通信隊とは言わなかった。

・基地の様子

着任時点で、基地の建物や防空壕は建設されており、基地の周囲は土塁に囲われていた。

道路は未舗装ながら土をつき固めてあり、兵舎を画するような塀などは本部建物を含めなかった。

・防空壕（指定物件）について

防空壕の存在は知らず、本部へは用がない限り近づくこともなかった。

・兵舎について

兵舎は木造2階建て瓦葺であった。

兵舎裏手の北西寄りの一面に便所があり、裏手には物干場や北東寄りには散髪所があった。

兵舎ごとに20人程度が入れる規模の防空壕が複数あった。（伊藤氏もスコップで掘った記憶もあるとのこと。）

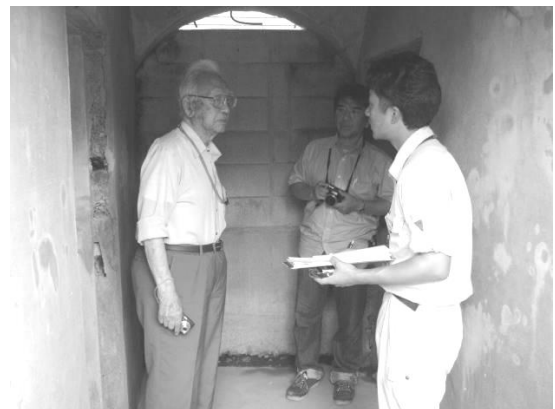
・所属部署：第8中隊（部隊規模秘匿の目的で、通称「高須隊、高瀬班」）

1班の規模は約50名、1隊の規模は200名～300名

第8中隊は、他の中隊とは異なる任務で、通信機器の保守管理や補修などを担当していた。

他の部隊は、通信兵を教習することが目的だった。

・日々の任務



聞き取り調査の状況

「並業（ナミギョウ）」（射撃などの軍事訓練）と「特業（トクギョウ）」（通信機器の整備）があり、定められた時間割りに沿って任務に当たった。受信所・送信所は教習目的で使用するほか、戦地からの電信を受信することもあった。

・生活

とにかく空腹であったことが一番の思い出。出される食べ物は大根ばかりだった。

街中で見かける兵隊の姿は正装（革靴にきれいな服）だったが、基地に入るとぼろぼろの衣服だった。

炊事舎があり、炊事当番の者が配膳した。昼食は兵舎へ戻った。酒保があったが、ほとんど機能していなかった。

米軍艦載機の攻撃があり、知る限り2名が亡くなった。

地元の農家がトイレの汲み取りに来ていた。（北側の裏門から必ず出入りした）

昭和19年12月練兵場で整列中に大地震に遭遇した。（昭和19年12月7日午後1時に発生の昭和東南海地震を指すと思われる）自動車部隊は急ぎ基地から出動していた。

ごくまれに外出が許された。外出の範囲は宇治山田から松阪で、鉄道を利用した。最初は引率者付の外出であった。

・部隊解散命令後

昭和20年6月に解散命令が出され、大阪府八尾市の大正空港へ転属。解散の理由は不明で、突然出された。

残務整理で一部基地に残る者もいたが、大半が転属した。解散時に缶詰（昆布・豆など）が振る舞われた。

・明和町指定文化財「陸軍第七通信連隊一二八部隊 防空壕」（史跡）について

当該文化財は、平成27年度に文化財指定を行ったものである。前述の兵舎とも関連することから、合わせてその概要を述べる。なお、調査にあたっては山本達也氏の協力を得た。

【概要】

陸軍第七通信連隊一二八部隊の駐屯地は、第二次世界大戦中の昭和17年(1942)12月15日に明和町斎宮の北野に設置された。本防空壕は、この駐屯地の施設の1つとして連隊本部の西約50mの位置に建設されたものである。当防空壕の用途について地元の伝承では、一般兵用ではなく連隊本部の士官専用のもので、北側の部屋は天皇陛下の写真を置く場所があったと言われている。

【規模】

平面形：元は十字型（現在はT字型）で、中央に通路があり、左右に部屋。

復元長：約13m 幅：6.7m

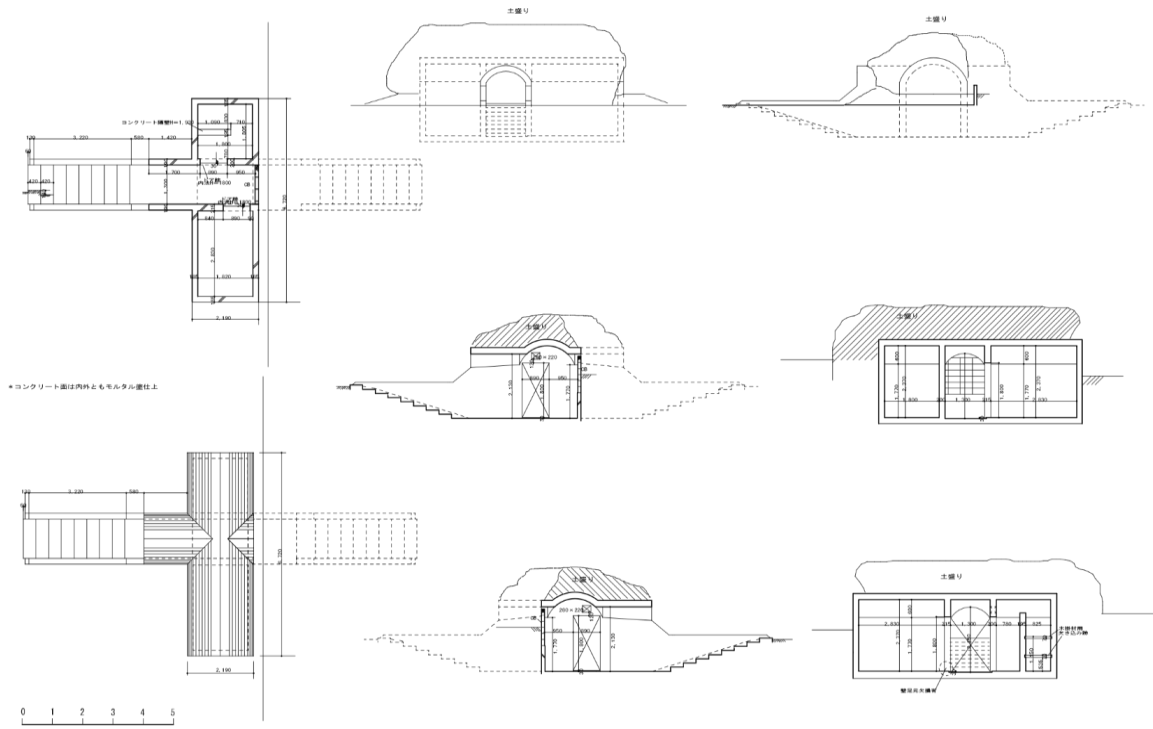
北部屋：1.8m四方 南部屋：東西1.8m、南北2.83m

【評価】

第二次世界大戦に関する遺構は、近年の開発などによって、その数は少なくなっている。陸軍第七通信連隊一二八部隊に関係する遺構も、地上で確認できる遺構は少なくなり、部隊の中核に関わるものとしては、現在地上で見ることができる唯一の遺構となっている。

本例のように、僅かな士官を収容するものは相当に小型の部類で、非常に珍しい。全国的に見ても、同じ構造を持つ壕は現存例が確認できない。

一部が破壊されているとはいえ、構造的・規模的にも大変貴重で戦争時の形をよく残しており、町の歴史に欠かせないものである。



陸軍第七通信連隊一二八部隊 防空壕 実測図 (1:250)
 ※実測および製図には高橋徹氏(明和町文化財保護審議委員)のご協力を得た。



防空壕 現況 (平成28年3月時点)

第7章 事業

1. 史 齋宮跡 史跡等買上げ（直接買上げ）事業（公有地化事業）

201,964,770 円（内、国補助：160,525,000 円、県補助：30,098,000 円）

史跡齋宮跡の保存を図るため、国庫補助および県費の補助金を受けて、13 件（公簿面積 7,257.00 ㎡、175,008,900 円）の公有地化を行った。なお、先行取得を含む総額は 899,507,765 円である。

なお、事業に伴い史跡齋宮跡の歴史および文化をしつてもらうことを目的に、県の補助（補助 60,000 円）を受けて「いつきのみや盤すごろく大会」（全 10 回、合計参加者 113 名）を開催した。

2. 埋蔵文化財発掘調査

- ・ 史 町内遺跡 発掘調査等事業 3,573,293 円（内、国補助 1,500,000 円、県補助 350,000 円）

町内の遺跡地内における個人住宅等の申請内容について緊急に対応するため、国庫補助を受けて調査を実施した。本年度については、史跡齋宮跡内において 8 件、532.9 ㎡で発掘調査を行った。

- ・ 歴史的風致維持向上計画推進事業に伴う発掘調査 1,671,581 円（6 件、177.6 ㎡）
- ・ 埋蔵文化財緊急発掘調査（一般）643,883 円（24 件、約 422 ㎡）

3. 史跡および施設の管理

- ・ 史跡管理事業 33,400,597 円
- ・ 体験学習施設維持管理 34,677,354 円（内、県補助：18,938,000 円）
- ・ 植栽事業 1,891,000 円

公園管理、いつきのみや歴史体験館などの運営管理、施設管理については公益財団法人齋宮跡保存協会へ委託し、管理を行った。

なお、平安時代の齋宮寮庁の中心部分を復元した史跡公園さいくう平安の杜については、平成 27 年度に三重県による整備後、明和町へ貸与されたことを受け、平成 28 年度は明和町が直営で管理を行った。管理にあたっては、地元牛葉地区の有志で結成された呉竹倶楽部（18 名）に施設の施錠及び来訪者への対応を委託した。

入園者数：17,288 名、使用申請件数：29 件（内、使用料を伴うもの：11 件、使用料収入 273,725 円）

4. 歴史的風致維持向上計画推進費

- ・ 歴史的風致維持向上計画事業 475,999,946 円（内、国補助 193,314,000 円）

明和町歴史的風致維持向上計画に基づき、国庫補助を受けて事業を実施した。本年度の主な事業としては、いつきのみや地域交流センター建設工事、下園東区画広場整備工事、坂本古墳公園整備工事、町道坂本・齋宮線における景観形成工事（カラー舗装等）である。

特にいつきのみや地域交流センターについては、地元住民の交流拠点および、史跡齋宮跡への来訪者に対するおもてなしの拠点となることを目的に建設を行った。平成 29 年 3 月 19 日に竣工式を行い、合わせて京都橘大学の増淵教授による記念講演（「歴史遺産とまちづくり」）を開催した。



・歴史的風致活用国際観光支援事業 113,145,936円

(内、国補助：53,800,000円)

観光客の受入環境整備を行い、歴史的風致を活用した都市の魅力向上及び賑わいの創出を図り、地域活性化を実現することを目的として、国庫補助を受けて事業を実施した。

本年度は、多言語誘導案内板の設置事業および奈良・平安装束体験プログラムの構築事業を実施した。



・地域公共ネットワーク等強じん化事業 50,126,040円 (内、国補助25,063,000円)

本事業はWi-Fiステーションならびにアクセスポイントを整備するもので、平常時には観光目的とし、災害発生時には観光客や住民が広く情報収集できる状態を確保し、円滑な避難誘導などによる防災・減災を目的として整備を実施した。

5. 日本遺産魅力発信推進事業 (日本遺産「齋宮」活用推進事業) 3,544,663円

明和町日本遺産活用推進協議会(事務局：齋宮跡・文化観光課)が、国庫補助を受けて事業を実施した。

本年度は、小学校向けの漫画解説本を作成し町内の各小学校に配布したほか、近畿日本鉄道名古屋～鳥羽間で日本遺産のラッピングを行った車両の走行を行った。また、日本遺産アプリ開発事業として、構成文化財である齋宮跡の再現CGなどを作成し、「齋宮VR」としてさいくう平安の杜で来訪者に貸出を行っている。



小学校向けの漫画解説本の作成、近鉄車両ラッピングによる情報発信、齋宮VRの作成

6. 啓発事業 6,239,463円 (内、県補助は55,000円)

三重県教育委員会の地域文化財総合活性化事業において、企画展示とかわせみ座による地元小学生などへの紙芝居2事業が県の補助金を受けて実施した。また、当該事業の内5,500,000円は、(公財)国史跡齋宮跡保存協会へ史跡齋宮跡の啓発を目的に委託した費用である。

・企画展示「土器づくりのさとー有爾郷ー」

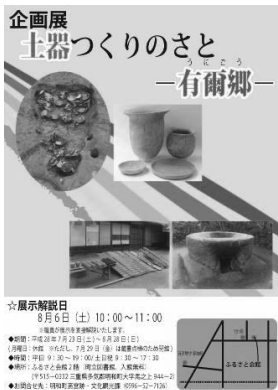
場所：明和町ふるさと会館 会期：7月23日～8月28日 観覧者数：82名

＜展示説明会＞ 8月6日10：00～11：00 参加者数：25名

＜出張説明会＞ 8月21日9：30～10：30(本郷会館)参加者数：25名

企画展に合わせて明和町文化財解説シート「土器づくりのさとー有爾郷ー」No.1・2を作成した。

なお、本企画展は三重県の地域文化財総合活性化事業の補助を受けて開催した。



展示説明会（左）、展示した水池土器製作遺跡出土の土器（右）

・さいくうあと通信

斎宮跡および町内の文化財への関心を高める目的で、平成 28 年度は下記の内容で 4 回発行し、町内全戸へ配布を行うとともに斎宮歴史博物館など各施設へも設置した。配布した通信は、役場ホームページに掲載し、広く町内文化財の啓発を行っている。

- 18号 6月30日 「新しい指定文化財の紹介～陸軍第七通信連隊一二八部隊 防空壕～」
- 19号 6月30日 「新しい指定文化財の紹介～小金古墳群 3号墳～」
- 20号 12月15日 「斎宮跡のいま・むかし」
- 21号 3月31日 「いつきのみや地域交流センターが完成しました！

安養寺の文化財が三重県の有形文化財に指定されました!!



平成 28 年度に刊行した「さいくうあと通信」

・熱気球係留フライト体験

8月21日(日)に史跡斎宮跡の広さを体感し、遺跡への愛着を深める目的で、史跡斎宮跡地内の上園芝生広場において、熱気球係留フライト体験を実施した。

イベントには、53組 198名の事前応募があり、当日は42組 151名が熱気球に搭乗した。残念ながら、強風のため途中で中止となった。



第8章 活用・普及・啓発など

1. 取材対応など

- 4月12日：中部電力情報誌『Lu』 さいくう平安の杜、竹神社、業平松など案内
4月：エムエムいたみプレス vol.21 お国じまん旅じまん 国指定史跡齋宮跡
5月16日：『joinfomag』 さいくう平安の杜、日本遺産取材
7月7日：百五銀行情報誌 さいくう平安の杜取材
7月13日：朝日新聞 「陸軍第七通信連隊一二八部隊 防空壕」取材
8月2日：NHK 三重支局 「陸軍第七通信連隊一二八部隊 防空壕」取材（8月5日 ほっとイブニング三重）
8月8日：三重テレビ放送 特別番組「齋王」収録
8月26日：齋宮小学校2名 齋宮跡の勉強
7月28日：齋宮小学校5名 防空壕・日本遺産の勉強
7月29日：齋宮小学校1名 防空壕の勉強
8月19日：齋宮小学校1名 防空壕の勉強
10月：大学生卒業論文（隆子女王の墓、惇子内親王の墓）に関する資料提供
10月3日：町民1名 日本遺産の説明
11月30日：『NOSAI 松阪飯多』「東西南北わがまち愛するふるさと」明和町特集へ寄稿
12月7日：松阪ケーブルテレビ VR取材
2月21日：NHK番組 「日本人のおなまえ」取材
2月28日：NHK番組 「ヒストリア」取材
3月17日：NHK番組 「ヒストリア」取材

2. 資料調査対応

- 7月7日：奈良大学豊島准教授、坂本1号墳出土・金銅装頭椎大刀の調査対応
11月25日：安養寺跡、鳥墓遺跡出土遺物の閲覧対応

3. 貸出・提供

- 年間：齋宮歴史博物館 水池土器製作遺跡出土土師器計4点 常設展にて展示
年間：安養寺 安養寺跡の発掘調査出土品（青磁香炉など計18点）の展示
5月31日～6月27日：百五銀行齋宮支店 日本遺産のパネル貸出展示
7月1日：三重テレビ 水池土器製作遺跡画像提供2点
7月15日～9月9日：百五銀行大淀支店 日本遺産のパネル貸出展示
9月12日：明星小学校 授業教材用に水池土器製作遺跡出土土器を貸出
9月23日～26日：研究会「海の高墳を考えるVI」に戸峯古墳群出土須恵器9点貸出
9月29日：修正小学校 授業教材用に有爾郷に関わるパネル貸出
10月21日：三重県埋蔵文化財センター 金剛坂遺跡「環状壺形土器」画像1点提供
12月16日：金宇大（京都大学白眉センター）『金工品から読む古代朝鮮と倭』
坂本1号墳出土金銅装頭椎大刀 画像提供
12月22日：中久保辰夫（大阪大学埋蔵文化財調査室）『日本古代の国家形成過程と対外交流』
神前山1号墳 子持壺 実測図提供

4. 寄贈・寄託

12月7日：上野地区ものとう（大黨）関連資料（幕、太鼓、食器類）寄贈受入

2月6日：川尻地区出土土器（山茶碗2点）寄贈受入

5. 講座・説明会・イベントなど

4月9日：上野自治会 39名 伊勢街道・安養寺跡の説明

5月21日：明和町郷土文化を守る会講演 46名 「身近な文化遺産の楽しみ方」

5月31日：明和町自治会長会 66名 日本遺産構成文化財の案内

6月21日：明和町議会 12名 日本遺産構成文化財の案内

6月27日：明和町小中学校教頭 6名 日本遺産構成文化財の案内

8月5日：多気郡教職員夏季研修会 15名（さいくう平安の杜、斎宮跡）

8月15日～19日：大学生インターン受け入れ（日本遺産・斎宮跡発掘体験など）

10月30日：済生会明和病院「済生会健康フェスタ」安養寺跡出土品展示 約50名

10月31日：四日市市教育委員会職員 さいくう平安の杜案内

11月1日：島根県津和野町議会 日本遺産・さいくう平安の杜案内

11月21日：日本遺産活用推進協議会 18名 レンタサイクルによる日本遺産構成文化財案内

12月1日～1月31日：平安の杜において四日市市久留倍官衙遺跡・斎王まつりパネル展示

12月6日：平成28年度三重県埋蔵文化財行政基礎講座（9市町約20名）

「文化財保護行政の実務―埋蔵文化財を中心に―」

12月13日：郷土史同好会 約10名 日本遺産の概要説明

12月16日：中町老人会・中町自治会 30名 日本遺産の概要説明・竹神社の狛犬について

1月26日：文化財防火デー 消火訓練 さいくう平安の杜にて実施（呉竹倶楽部参加）

2月11日：明和町郷土文化を守る会講演会 51名 「地域の歴史を知ろう～町民と一緒に見つける文化財～」

6. 文化財保護関係団体などの活動

・史跡斎宮跡・伊勢街道まちづくり会

11月1日：史跡斎宮跡・伊勢街道まちづくり会 21名 伊勢街道ウォーク（祓川～中町）

11月15日：史跡斎宮跡・伊勢街道まちづくり会 20名 伊勢街道ウォーク（上野～新茶屋）

12月11日：「景観まちづくりシンポジウム」（三重県主催）パネリスト参加

・史跡斎宮跡の植栽（町民等参加）

4月17日：明和町花いっぱいおもてなし運動（伊勢志摩サミット関連）

7月9日：コスモスの種まき

8月20日：そばの種まき 37名参加 11月18日：そばの実収穫 31名参加

10月23日：菜の花種まき

・いつきのみやガイドボランティア

年間ガイド人数：5,321名

・斎王紙芝居かわせみ座

5月24日：斎宮小学校5・6年生 110名 対象

6月23日：斎宮小学校3・4年生 116名 対象

9月15日：中央公民館寿大学 22名（さいくう平安の杜西脇殿）

9月20日：中央公民館女性教室 6名（さいくう平安の杜西脇殿）

2月25日：いつきのみや梅まつりにて上演 100名

なお、かわせみ座の活動については三重県の地域文化財総合活性化事業の補助を受けた。

・明和町職員労働組合

5月28日：明和町職員労働組合青年部 30名 齋王まつり前にさいくう平安の杜清掃活動

9月10日：明和町職員労働組合 史跡齋宮跡クイズラリー

7. 関連新聞記事一覧

※一覧表は当課にて把握できた文化財係に関連する新聞記事をもとに作成した。したがって、これ以外にも関連記事がある可能性がある。

日付	新聞社	見出し
4月4日	中日新聞	「知名度向上へ知恵絞る」明和の齋宮跡ストーリー日本遺産一年
4月4日	夕刊三重	「齋宮に噴水の広場」
4月6日	中日新聞	「齋宮」アプリで学ぼう 明和町が開発、無料配信
4月9日	中日新聞	「齋王の物語に触れて」
4月12日	読売新聞	三重大、皇学館大 合同シンポ「桓武天皇と齋宮」
4月14日	毎日朝刊	防空壕を文化財に
4月16日	夕刊三重	「歴史を後世に伝えて」町が文化財指定書交付 防空壕所有の木戸口さん
4月18日	中日新聞	花でおもてなし平安の杜周辺飾る
4月20日	中日新聞	冊子「伊勢街道ものがたり」
4月25日	夕刊三重	平安期の端午節句、知る
4月26日	中日新聞三重版	2016 ジュニアサミット 三重の自然や文化満喫
4月26日	中日新聞	開幕まで30日 24時間光る警備の目
4月26日	読売新聞	ジュニアサミット「伝統生きている」
4月26日	毎日新聞	ジュニアサミット代表28人各地で交流
4月26日	夕刊三重	ジュニアサミット齋宮の文化「かっこいい」
4月26日	読売新聞	伝統・最新の技 体験&交流 ジュニア参加者県内楽しむ
4月26日	中日新聞	2016 ジュニアサミット 伝えた！郷土の誇り 平安衣装で盤双六 いつきのみや歴史体験館
5月2日	夕刊三重	増える観光客、対応話す 齋宮ガイドボラが総会
5月6日	夕刊三重	観光情報誌、都市圏に「1市3町で」一つの観光地”
5月7日	中日新聞	陸軍第7通信連隊128部隊防空壕 明和町史跡に指定
5月9日	夕刊三重	国際交流員・トニーさん 外国人に齋宮を案内
5月12日	夕刊三重	「発掘、いつでも見られる」齋宮跡、体感ミュージアムに（歴史博物館）
5月12日	夕刊三重	齋宮、情報発信が鍵
5月14日	夕刊三重	英語パンフで齋宮紹介
5月17日	中日新聞	「親しまれるよう頑張る」主役・八木さん抱負
5月17日	伊勢新聞	齋王役がまつりPR 知事に意気込み語る

日付	新聞社	見出し
5月17日	毎日新聞	「齋王まつり」PR 実行委が県庁訪問
6月1日	夕刊三重	66人が町政現状を知る 明和町が自治会長会
6月	夕刊三重	「毎日公開」初日は73人 発掘“体感”ファン喜ぶ
6月6日	朝日新聞	昨秋復元の正殿齋王がお目見え さいくう平安の杜
6月6日	伊勢新聞	往時の群行再現 明和町で齋王まつり
6月6日	夕刊三重	雅楽響き、静々と 群行にきた人らで齋王まつりにぎわう
6月8日	中日新聞	「齋王群行」華やか平安装束 明和でまつり
6月	夕刊三重	井戸掘り、改良“一歩目”いつきのみや体験館周辺 町の花ノハナショウブ見頃
6月16日	中日新聞	県内観光客2.5%増 昨年遷宮の13年に次ぐ多さ
6月17日	夕刊三重	御城番、さいくう初公表 県の観光入り込み客数調べ 月5000人来訪でリスト入り
6月24日	中日新聞	体験館中庭で盆踊り 来月16日に明和町齋宮校区
6月26日	夕刊三重	体験館中庭で盆踊り 来月16日に明和町齋宮校区青少年育成会 「大々的に」と要望し、初めて
6月28日	夕刊三重	走る広告、名古屋、関西圏に ラッピング電車、バス「祈る皇女・齋王のみやこ」へお越し
6月29日	伊勢新聞	日本遺産「齋宮」PRへ 近鉄アートライナーと三交バス ラッピング車両、来月運行
6月30日	夕刊三重	万葉歌人や齋王など押し花で表現50点 明和町の愛好会
7月1日	中日新聞	「齋宮」アピールに奔走 バスと列車に写真や宣伝文
7月2日	朝日新聞岐阜	「日本遺産」を論議 岐阜で初のサミット
7月2日	中日新聞	電車もバスも齋宮の「装い」 近鉄・三重交通
7月5日	読売新聞	齋宮跡PR ラッピング 近鉄電車と三重交通バス
7月22日	中日新聞	「観光資源市民理解を」松阪地域4首長が意見交換
7月	みえ中日ライフ	「齋宮」アピール バスと列車に写真や宣伝文
7月27日	夕刊三重	かつて神宮奉納の拠点明和町ふるさと会館で展示 有爾郷の土器遺跡を紹介
8月1日	旬刊旅行新聞	日本遺産を読み解く ◆蘇る齋宮 齋宮跡
8月1日	夕刊三重	花火200発が夜空彩る 大淀祇園祭、海上渡御も
8月1日	夕刊三重	明和町金剛坂出身の西山さん(京都市)ら演奏
8月11日	朝日新聞	防空壕、指定文化財に 明和町、県内初 住宅地にたたずむ
8月18日	中日新聞	齋宮跡にWi-Fi 屋外でも使用可能に
8月18日	夕刊三重	齋宮一帯で無線OK 9か所にWiFiステーション 誘客切り札、防災にも
8月	—	来月17日に観月会いつきのみや体験館周辺 齋王の舞や雅楽、展示
8月19日	夕刊三重	発掘や魚取り「初めて」の子も 明和町で子ども川サミット
8月20日	夕刊三重	タカサゴユリ斜面に500株 齋宮調整池で満開
8月22日	中日新聞	青空に月と虹熱気球200人体験
8月26日	中日新聞	齋宮の発掘現場役人の屋敷地か 建物跡から高級陶磁器 いつきのみや歴史体験館 課外教室で「貝覆い」小学生平安時代の遊び楽しむ
8月28日	中日新聞	齋宮の杜 気球から眺める
8月	中日新聞	1000年昔に思いはせ齋宮跡で発掘説明会
8月30日	夕刊三重	4回の予定、6回に 齋宮の発掘調査説明会多くの来場者、成果聞く

日付	新聞社	見出し
9月1日	中日新聞	ラインスタンプ第2弾やに 明和町キャラ「めい姫」
9月7日	夕刊三重	いつきのみや地域交流センター ホールに最大300人収容 明和町来年度開設 「一つの斎宮、観光の拠点に」
9月	—	平安の杜、水はけ改善を 明和町長が鈴木知事に 観光対策で無線LAN整備も
9月14日	中日新聞	「斎宮跡」の通路をバリアフリー要望 明和町長、知事に
9月16日	夕刊三重	斎王テーマに紙芝居寿大学で初披露 明和町のボラ「かわせみ座」
9月24日	夕刊三重	初代斎王まつりなど振り返る写真展 来月2日まで斎宮の西脇殿で
9月24日	中日新聞伊勢志摩版	伊勢物語の書名 斎宮、あま…由来に諸説
9月26日	中日新聞	記念碑に稲穂かけ神事 明和
9月26日	夕刊三重	カケチカラ会が奉納祭明和町根倉発祥地で伊勢神宮との関わり、文化を伝承
9月27日	中日新聞	「サザエさん」OPに県観光地
9月28日	中日新聞	斎王まつり写真を展示
10月1日	読売新聞	「サザエさん」県内訪ね歩く あすから半年間放送オープニングに登場
10月4日	伊勢新聞	レンタルサイクル実験 斎宮で日本遺産活用推進協
10月4日	夕刊三重	日本遺産周遊にGPS付き自転車 来年度導入目指し、実証実験
10月4日	中日新聞	外国人観光客にも対応 明和の新案内所が完成
10月5日	中日新聞	電動自転車を貸し出し 観光振興へ運用法探る
10月13日	中日新聞	50万人目に岡沢さん 斎宮の歴史体験館
10月13日	伊勢新聞	いつきのみや歴史体験館 入館50万人達成
10月13日	夕刊三重	来館者数50万人を達成 いつきのみや歴史体験館
10月15日	朝日新聞	斎宮跡を軽やかに 電動自転車貸し出し実験
10月20日	中日新聞	「中部歴史まちづくりサミット」が岐阜県恵那市で開催
10月	夕刊三重	「さいくう平安の杜」見学者3万人超える
11月2日	夕刊三重	伊勢街道まちづくり会 斎宮跡ウォーキングに25人
11月9日	夕刊三重	大海人皇子の縁で連携 斎宮、久留倍官衙遺跡一緒に誘客
11月26日	中日新聞	県と四日市市、明和町が協定 古代史跡PRへ連携
11月28日	夕刊三重	かるた初心者、93人が熱戦 明和町の西脇殿などで
11月29日	中日新聞	百人一首和装で勝負 明和で大会
11月30日	中日新聞	唐三彩陶枕の破片展示 明和の斎宮歴史博物館で
12月5日	夕刊三重	「春よ、来い」など箏で合奏 復元建物 西脇殿
12月5日	中日新聞	「るるぶ松阪・多気・明和・大台」 見どころ一冊に
12月6日	夕刊三重	斎宮跡の調査、年度内に方針 西場県議一般質問
12月6日	中日新聞	斎宮の繁栄 VRで紹介
12月8日	夕刊三重	「竹茗舎」来月15日まで開館7周年展
12月9日	夕刊三重	「平安の杜」VR無料で貸し出し 来年3月まで
12月17日	読売新聞	斎宮再現CGタブレットで
12月23日	伊勢新聞	明和町の斎宮跡 進む整備、知名度向上 集客期待も町負担は増

日付	新聞社	見出し
12月24日	夕刊三重	平安時代の「追儼」再現
12月24日	中日新聞	明和で追儼のまつり 邪気払い「なやろー」
12月28日	夕刊三重	仏通禅師(1229~1312)の法衣や剃刀 明和町の安養寺蔵 鎌倉時代の県内第一級資料
12月28日	中日新聞	県文化財新たに6件 保護審が答申 深妙大将立像など
1月4日	朝日新聞	王朝ロマン語り継ぐ里 憧れの齋王役、明和に恩返し
1月6日	読売新聞	「齋王」表現 明和の逸品 高校生考案美しい色
1月19日	夕刊三重	いつきのみや地域交流センター 3.19(さいくう)にお披露目式 4月オープン前に地域の人に
1月22日	読売新聞	BS フジ午後3:00~ 「齋王~幻の宮の皇女」
1月28日	夕刊三重	指定管理に国史跡保存協 齋宮の史跡公園など5施設 明和町、観光イベントなどで連携
1月28日	夕刊三重	「和」テーマに根付など270点 来月12日まで齋宮歴史博物館でまちかど博物館22館が展
2月11日	中日新聞	齋宮の主要建物を特定 奈良時代の柱跡を発見
2月13日	夕刊三重	富山さん(齋宮小4・小学生高学年の部)らが優勝 明和町の西脇殿で「盤すごろく大会」本戦に12人
2月14日	夕刊三重	伝承文化掘り起しを 明和町が取り組み 後継者不足で消える前に
2月22日	夕刊三重	宮殿板塀の柱穴跡発見 齋宮歴博、25日現地説明会 奈良時代の齋王解明に前進
2月26日	中日新聞	あでやかな齋王 梅まつりに彩り
2月26日	中日新聞	齋宮のロマンに感慨 発掘調査現場で説明会
2月26日	産経新聞	齋王の生活に思いはせ 中枢域困う堀跡 現地説明会に200人超
2月27日	中日新聞	明和で「春絵巻」平安衣装楽しむ 試着体験など祭り
3月16日	伊勢新聞	齋王のまちパンフ作成 明和町と皇大生が500部
3月16日	中日新聞	齋王の旅“すごろく”で 皇学館大生明和の観光パンフ作成
3月17日	伊勢新聞	地域交流施設が完成 明和町 いつきのみや、19日式典
3月17日	夕刊三重	地域交流センターでき、拠点整う 齋宮跡「核」に観光客呼ぶ 主要5施設を紹介
3月17日	夕刊三重	復元建物の構造など再現 19日のイベント、先着で無料配布 齋宮歴博ペーパークラフトを制作
3月20日	読売新聞	齋宮跡近くに観光拠点完成 明和 300人収容のホール整備
3月20日	中日新聞	齋宮跡観光 拠点が完成 明和に来月開館 休憩や会議の場提供

附編.

指定文化財一覧 ※網掛けの文化財は本書で記述があるもの

国指定文化財一覧

種別	名称	員数	時代	所有者等	指定年月日
有 彫	木造諸尊仏龕	1 軀	平安	個人	S38. 7. 1
有 考	三重県齋宮跡出土品	2661 点	飛鳥～平安	三重県	H21. 7. 10
記 史	水池土器製作遺跡	1	奈良	明和町	S52. 7. 25
記 史	齋宮跡	1	奈良～平安	明和町ほか	S54. 3. 27
記 天	齋宮のハナショウブ群落	1		明和町	S11. 12. 16

県指定文化財一覧

種別	名称	員数	時代	所有者等	指定年月日
有 工	刀 銘 固山宗次作之	1 口	江戸	個人	S31. 5. 2
有 工	短刀 銘 雲林院政盛作	1 口	室町	個人	S43. 3. 18
有 工	六地藏石幢	1 基	室町後期	中町自治会	S62. 3. 27
有 工	仏通禪師所用法衣並びに伝来什物	一括	鎌倉～江戸	宗教法人安養寺	H29. 2. 2
有 絵	紙本金地着色伊勢物語図六曲屏風	1 双	江戸前期	三重県	H17. 3. 17
有 絵	紙本着色源氏物語色紙貼交二曲屏風	1 双	桃山末・江戸初期	三重県	H17. 3. 17
有 書	齋宮女御集（正般所蔵本）	1 冊	鎌倉	三重県	H22. 3. 11
有 書	齋宮女御集（資経本）	1 冊	鎌倉	三重県	H22. 3. 11
有 文	紙本墨書 癡兀大恵印信 附 紙本墨書空然印信	25 通	鎌倉	安養寺	S33. 12. 15
有 文	紙本 墨書安養寺文書	8 通	鎌倉～室町	安養寺	S33. 12. 15
有 文	大淀村二天八王子社神事頭番張	1 巻	室町	竹大与杼神社	S62. 3. 27
有 考	金銅装頭椎大刀	1 口	古墳	明和町教育委員会	H13. 3. 27
有 考	馬形埴輪(石薬師東古墳群 63 号墳出土)	1 点	古墳	三重県	H15. 3. 17
有 考	土偶(粥見井尻遺跡出土)	2 点	縄文	三重県	H16. 3. 17
有 考	雲出島貴遺跡中世墓出土品	36 点	鎌倉	三重県	H17. 3. 17
有 考	初期須恵器・韓式系土器（六大 A 遺跡出土）	107 点	古墳	三重県	H18. 3. 17
有 考	磨製石斧製作関係資料一括（宮山遺跡出土）	121 点	弥生	三重県	H19. 3. 27
有 考	陶質土器（木造赤坂遺跡出土）	1 点	古墳	三重県	H21. 3. 11
有 考	東条 1 号墳出土品	551 点	古墳	三重県	H29. 2. 2
記 史	坂本古墳群	1	古墳	明和町	H16. 1. 19

町指定文化財一覧

種別	名称	員数	時代	所有者等	指定年月日
有 建	転輪寺表門	1棟	江戸	転輪寺	S56. 10. 27
有 建	転輪寺庫裡	1棟	江戸	転輪寺	S56. 10. 27
有 彫	木造聖観音立像	1軀	平安	養川自治会	S56. 8. 10
有 彫	木造胎蔵界大日如来坐像	1軀	平安	養川自治会	S56. 8. 10
有 彫	木造阿弥陀如来立像	1軀	鎌倉	納願寺	S56. 9. 28
有 彫	木造阿弥陀如来立像	1軀	鎌倉	両谷寺	S56. 10. 27
有 彫	木造僧形坐像	1軀	江戸	納願寺	S58. 1. 25
有 彫	木造阿弥陀如来立像	1軀	室町	円明寺	S58. 1. 25
有 彫	木造獅子頭	1個	室町	久安寺	S58. 1. 25
有 彫	木造不動明王立像	1軀	平安	西光寺	H26. 3. 24
有 工	銅 鐘	1口	江戸	転輪寺	S56. 10. 27
有 文	八木戸庄屋文書	1450点余	江戸	明和町	S56. 10. 27
有 文	佐田村子安地藏来歴	1巻	江戸	明和町	H4. 7. 17
有 文	郷中十七ヶ条	1巻	江戸	明和町	H5. 12. 21
有 文	北畠具教感状	1幅	室町	明和町	H5. 12. 21
有 考	環状壺形土器	1口	縄文	明和町教育委員会	H8. 9. 27
無 民	前野のお頭神事	—	江戸	前野自治会	S59. 2. 23
無 民	麻生の左義長	—	江戸	麻生自治会	S59. 2. 23
無 民	大淀の祇園祭	—	江戸	明和町大淀 三世古・東区・山大淀	S60. 2. 18
無 民	算所の祇園祭	—	安土桃山	算所共進社	S60. 2. 18
無 民	前野の浅間行事	—	江戸	前野自治会	S60. 2. 18
無 民	宇爾桜神社かんこ踊り	—	江戸	有爾中自治会	S60. 2. 18
無 民	養村虫送り	—		養村自治会	H26. 3. 24
記 史	烏墓神所跡	1		養村区	S58. 1. 25
記 史	惇子内親王墓	1		個人	S58. 1. 25
記 史	斎王尾野湊御祓場跡	1		明和町	H7. 3. 17
記 史	陸軍第七通信連隊一二八部隊 防空壕	1	昭和	個人	H28. 3. 23
記 史	小金古墳群 3号墳	1	古墳	明和町	H28. 3. 23

種別左 有=有形文化財 無=無形文化財 民=民俗文化財 記=史跡名勝天然記念物

種別右 建=建造物 絵=絵画 書=書跡・典籍 彫=彫刻 工=工芸品 文=古文書 考=考古資料 無=無形民俗文化財 史=史跡 天=天然記念物

各種委員会

当課には、下記の委員会について事務局が置かれている。

- ・明和町文化財保護審議会 ※第2章を参照

- ・明和町歴史的風致維持向上計画協議会（会長：増淵 徹）

委員名簿

（平成28年2月1日～平成30年1月31日）

京都橘大学文学部 教授	国史跡齋宮跡協議会 会長	明和町文化財保護審議会 会長
三重大学大学院 工学研究科 准教授	(公財)国史跡齋宮跡保存協会 理事長	明和町文化財保護審議会 委員
三重県教育委員会 社会教育・文化財保護課 課長	明和町観光協会 会長	明和町 副町長
三重県環境生活部 文化振興課 課長	齋宮ガイドボランティア 会長	
三重県県土整備部 都市政策課 課長	史跡齋宮跡・伊勢街道まちづくり会 会長	

- ・明和町日本遺産活用推進協議会（会長：寺前 和彦）

構成団体名簿

明和町	明和町観光協会	齋宮ガイドボランティア	齋王の舞保存会
齋宮歴史博物館	齋王まつり実行委員会	明和町特産品振興連絡協議会	呉竹倶楽部
(公財)国史跡齋宮跡保存協会	大淀祭典委員会	明和町郷土文化を守る会	近畿日本鉄道株式会社
国史跡齋宮跡協議会	明和太鼓保存会	明和町緑のまちづくり推進委員会	三重交通株式会社
明和町商工会	明和音頭保存会	史跡齋宮跡・伊勢街道まちづくり会	

- ・史跡齋宮跡・伊勢街道まちづくり会（会長：永島 喬、副会長：辻 孝雄、堀木 茂）

委員 23名

※オブザーバー（齋宮歴史博物館、三重県県土整備部景観まちづくり課）

＜報告書抄録＞

ふりがな	めいわちょうぶんかざいねんぼう へいせい28ねんど							
書名	明和町文化財年報 平成28年度							
編著者名	味噌井 拓志							
編集機関	明和町斎宮跡・文化観光課							
所在地	〒515-0332 三重県多気郡明和町大字馬之上945番地 tel0596-52-7126							
発行年月日	2018年3月31日							
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
水池土器製作遺跡 (6-1次) 黒土遺跡 (11-1次)	明星字水池1633-16	442	260 230	34度 31分 43秒	136度 38分 12秒	2016.4.5	2	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
			なし	なし				
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
金剛坂遺跡 (17-1次)	金剛坂字辰ノ口751-59	442	36	34度 31分 45秒	136度 36分 10秒	2016.4.12	2	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
			なし	なし				
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
有爾町野遺跡 (2次)	大淀字東有爾町野2857-36	442	1	34度 34分 02秒	136度 39分 11秒	2016.4.13	2	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
			なし	なし				
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
金剛坂遺跡 (17-2次)	金剛坂字辰ノ口751-36	442	36	34度 31分 45秒	136度 36分 10秒	2016.4.20	2	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
			なし	なし				
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
露越遺跡 (9-1次)	竹川字南裏178番6	442	207	34度 32分 03秒	136度 36分 35秒	2016.5.18	3	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
			なし	なし				
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
水池土器製作遺跡 (6-2次) 黒土遺跡 (11-2次)	明星字水池1633-7	442	260 230	34度 31分 43秒	136度 39分 11秒	2016.6.15	3	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
			なし	なし				
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
水池土器製作遺跡 (6-3次) 黒土遺跡 (11-3次)	明星字水池1626-6	442	260 230	34度 31分 43秒	136度 39分 11秒	2016.7.13	2	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
			なし	なし				
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
金剛坂遺跡 (17-3次)	金剛坂字辰ノ口751-61	442	36	34度 31分 45秒	136度 36分 10秒	2016.7.19	2	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
			なし	なし				
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
露越遺跡 (9-2次)	竹川字南裏178番8	442	207	34度 32分 03秒	136度 36分 35秒	2016.7.26	3	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
			なし	なし				

所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
水池土器製作遺跡 (6-4次) 黒土遺跡 (11-4次)	明星字水池 1633-9 字黒土 1625 番 5	442	260 230	34度 31分 43秒	136度 39分 11秒	2016.7.27	3	個人住宅	
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
	集落跡 生産遺跡	奈良	なし	土師器					
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
	金剛坂遺跡 (17-4次)	金剛坂字辰ノ口 751-57	442	36	34度 31分 45秒	136度 36分 10秒	2016.9.9	2	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
	二ツ橋遺跡 (2次)	明星字二ツ橋 2092-14	442	259	34度 31分 54秒	136度 38分 18秒	2016.9.12	2	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
	水池B遺跡 (2次)	明星字水池 1692-3	442	524	34度 31分 48秒	136度 38分 16秒	2016.9.12	3	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
	申山C遺跡 (4次)	大淀字申山 2852 番 34 の一部 ほか	442	309	34度 34分 23秒	136度 38分 57秒	2016.10.3	2	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
	申山C遺跡 (5次)	大淀字西有爾町野 2854 番 16	442	309	34度 34分 20秒	136度 39分 02秒	2016.10.20	4	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
	水池土器製作遺跡 (6-5次) 黒土遺跡 (11-5次)	明星字水池 1633-15 字櫻出 3569 番 5	442	260 230	34度 31分 43秒	136度 39分 11秒	2016.10.31	3	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
	須磨ヶ広遺跡 (1次)	明星字須磨ヶ広 地内	442	646	34度 31分 28秒	136度 38分 42秒	2016.11.2 ~11.7	130	下水道管 敷設
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
	金剛坂遺跡 (17-5次)	金剛坂字辰ノ口 751-60	442	36	34度 31分 45秒	136度 36分 10秒	2016.11.25	5	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
			なし	なし					

所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
城堀遺跡 (4次)	上村字城堀 1309-13	442	170	34度 31分 36秒	136度 35分 53秒	2017.1.31 ~3.14	147	団地造成
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	散布地、その他の墓、城館跡	古墳・奈良・中世	古墳周溝、溝、ピット	須恵器、土師器、陶磁器				
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
北野遺跡 (10次)	養村字順礼野 472-145	442	228	34度 31分 35秒	136度 37分 26秒	2017.2.20	5	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
			なし	なし				
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
水池土器製作遺跡 (6-6次) 黒土遺跡 (11-6次)	明星字櫻出 3569番1 字水池 1633-11	442	260 230	34度 31分 43秒	136度 39分 11秒	2017.3.17	3	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	集落跡 生産遺跡	平安・中世	溝	土師器、山茶碗				
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
城堀遺跡(4次) (麻生里中1号墳) (1次)	上村字城堀 1309-13	442	170	34度 31分 36秒	136度 37分 26秒	2017.3.15 ~3.28	63	団地造成
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	散布地、その他の墓、城館跡	古墳・奈良・中世	古墳周溝、溝、ピット	須恵器、土師器、陶磁器				

明和町文化財年報

—平成 28 年度—

発行年：平成 30 年（2018）3 月 31 日

編集：明和町斎宮跡・文化観光課

発行：三重県多気郡明和町